

2020 年度 公募制推薦入学試験 問題用紙

| | | | | | | | | | | |
|-------|-----|------|--|--|--|--|--|--|--|----|
| 中国語学科 | 小論文 | 受験番号 | | | | | | | | 氏名 |
|-------|-----|------|--|--|--|--|--|--|--|----|

問1 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。設問には字数制限があるので、制限内で回答すること。

よく通る声だった。「ラブ・フォー・ニッサン」。日産自動車前会長のカルロス・ゴーン容疑者は、日産に注ぐ熱情を訴えた。英語と日本語が飛び交う法廷で、ご当人や裁判官、弁護士よりも多く長く言葉を発したのは、法廷通訳の女性だろう。法廷通訳は裁判所の職員ではない。語学講師らの兼業がほとんどだ。国内に3800人。言語は62に上る。「ゴーン氏の公判は会計や法律の知識が求められ、準備作業が膨大。私にはとても引き受けられません」と話すのは静岡県立大教授の高畑幸（たかはたさち）さん（50）。これまで500件もの裁判で通訳を務めてきた。案件は民事刑事とも多岐に及ぶ。「加害者の通訳もあれば、被害者や証人の言葉も訳す。訳し方によっては人の人生を左右してしまう。大変な重圧です」。隠語や下品な言葉、感極まっていたの涙声には骨が折れる。とりわけ手ごわいのは検察官の言い回しだ。早口。責め立てるような尋問。「絶対に記憶がないとは言い切れないですね」といった二重否定を頻用する。法廷通訳は5年間で200人も減っている。いつ裁判所から依頼が来るか読みにくい。報酬の基準が判然とせず、事前の書面翻訳には対価が支払われない。それゆえ専業の人は少ない。重責に報いるには、雇用環境が不安定すぎはしまいか。年ごとに多くの外国人が法廷に立つ時代である。肝心の通訳の成り手が細って大丈夫だろうか。ゴーン前会長の裁判の行方も気になるが、通訳制度の先行きの方も心配になってきた。

(朝日新聞 2019年1月9日「天声人語：法廷通訳人」より。なお、一部ふりがな、句読点などの書式を変更した。)

承諾番号(20-0439) 朝日新聞社に無断で転載することを禁ずる

設問1：この文章を300字程度で要約しなさい。

設問2：法廷通訳は「語学講師らの兼業がほとんど」という記述があります。それはなぜでしょうか。80字程度で書きなさい。

設問3：外国語を訳すことについてあなた自身の考えを100字程度で述べなさい。

